

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 文学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	深谷 康佳
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) ケラビット語バリオ方言の記述文法			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	今田 良信	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	高永 茂	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	今林 修	
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授	深見 兼孝	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、4部構成（第Ⅰ部：概説、第Ⅱ部：音韻論、第Ⅲ部：形態論・語類、第Ⅳ部：統語論）、全7章から成っている。この研究は、フィールドワーク（現地調査）を基盤とする言語の記述的研究であり、対象言語は、東南アジアのマレーシア、東マレーシアのボルネオ島、サラワク州北部のバリオ（Bario）村で使用されているケラビット（Kelabit）語バリオ方言〔以下、単にケラビット語とする〕である。この言語の系統は、オーストロネシア語族、マライポリネシア語派、北ボルネオ語派のサラワク諸語に属するとされている。</p> <p>第Ⅰ部、第1章では、本研究の目的と意義、対象言語の地理・系統・諸方言と周辺言語、対象言語使用者の民族構成と産業、人類学的記述、教育・メディア・活性度について述べ、さらにケラビット語に関する先行研究および類型論的特徴についてまとめている。</p> <p>第Ⅱ部、第2章では、ケラビット語の音声・音韻的特徴について記述している。特に、①母音体系について、母音音素を/i/, /u/, /ə/, /a/の4つとし、これまでの多くの先行研究とは異なり、[u]と[o]、および[a]と[e]について、[o]と[e]が主に語末という音声環境にしか現れないという分布の観点から、[u]と[o]は音素/u/の、[ə]と[e]は音素/a/の異音どうしであると実証的に分析、指摘した点、さらに、②先行研究において「有声帯気音」として分析されていた音声について、音響音声学的特徴と音韻論的特徴の両面から分析、記述を行い、「重子音」である可能性を指摘した点は、いずれもオリジナルなものである。</p> <p>第Ⅲ部、第3章では、ケラビット語の文法記述に先立ち、形態論と統語論の両面に跨って記述の単位となる用語として、「語（word）」、「小辞（particle）」、「接語（clitic）」、「接辞（affix）」を導入し、音韻上および形態統語上の自立性という基準に基づいて定義を行っている。</p> <p>第Ⅲ部、第4章では、第5章の語類別形態論に先立ち、ケラビット語の語類（word classes）（いわゆる品詞、語を形態統語的特徴により分類したものを指す）を分ける基準について述べている。</p> <p>第Ⅲ部、第5章では、ケラビット語における語類を「名詞語類」、「動詞語類」、「形容詞語類」および「その他の語類」に分け、さらにそれらを下位区分に細かく分けて分析し、説明・記述している。</p> <p>第Ⅳ部、第6章では、語順類型論的観点からケラビット語の節内基本語順と各種構成要素順序を分析、検討し、基本語順がSVOであることを示し、さらにこの言語が「主要部－従属部」型の言語であることを、明示的・実証的に初めて指摘している。</p> <p>第Ⅳ部、第7章では、ケラビット語の単文の構成について記述している。まず、単文の文法関係を構成する項目、テンス・アスペクト・ムード体系、ヴォイス体系をはじめとして、単文の項</p>			

目の数、述語のタイプ、発話行為タイプに基づく文タイプ別の構造などについて記述している。

この論文は、ケラビット語バリオ方言という、ほとんど記述の無い言語の文法を編んでゆくという、ある意味終わりの見えない作業の最初の集成であり、まだ粗削りな部分も見られるが、音韻論・形態論・統語論という文法記述の射程および言語記述の方法論の要諦はしっかり押さえている。また、前述の第2章①、②の箇所および、第6章の箇所で述べたような、先行研究には見られない、国内外で初めて指摘された新知見も少なからず含まれており、それらを実証的に明らかにした記述文法として高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)